

英検「準2級」二次面接試験の質問文で扱われる 話題と用いられる語彙・表現の分析

An Analysis of Questions Asking for Examinee's Opinion in the Grade Pre-2 EIKEN Interview Test

(2018年3月31日受理)

大橋 典晶 竹野純一郎 松浦加寿子 藤代 昇丈

Noriaki Ohashi Junichiro Takeno Kazuko Matsuura Noritake Fujishiro

Key words : 英検, 準2級, 二次面接試験, 設問内容, 話題, 語彙・表現

概 要

本研究では、英検準2級二次面接試験の受験者自身に関する意見を求める設問での質問文を分析することで、扱われる話題や用いられる語彙・表現の特徴を検証した。その結果、扱われる話題について、設問「No.4」と「No.5」ではいずれも英検準2級のレベルである「日常生活」に関する内容が質問されるが、設問によって話題内容の出現頻度が異なることが分かった。用いられる語彙・表現に関しては、それぞれの設問について質問文の傾向を記述するとともに、コンコーダンサー「Antconc」などを利用して現れる語彙・表現の特徴を具体的に示した。

1. はじめに

文部科学省(2013)は「第2期教育振興基本計画」の中で、英語教育の成果指標として、国際共通語としての英語力の向上を目指し、学習指導要領に基づき達成される英語力の目標「高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上の割合50%」を掲げた。文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な育成が求められており、文部科学省(2017)「大学入学者選抜改革について」の中では、平成32年度(平成33年度入学者選抜)から「大学入試センター試験」に代わり「大学入試共通テスト」を実施し、英語に関しては、一定の評価が定着している4技能の評価が可能な外部の資格・検定試験を活用することが提言された。

高等学校における英語力の実態については、文部科学省(2016)の「平成27年度英語教育改善のための英語力調査事業(高等学校)報告書」で詳しく知ることができ

る。この報告書は、国公立約500校の高等学校3年生約8.1万人、スピーキングテストについては約1.8万人を対象に、英語に関する4技能を調査したものである。英検準2級程度以上、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)A2レベル以上の割合は、「読むこと(32.0%)」「聞くこと(26.5%)」「書くこと(17.9%)」「話すこと(11.0%)」という結果であった。CEFRとはCommon European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, and assessmentの略称であり、文部科学省(2017)の中で提示された「各試験団体のデータによるCEFRとの対照表」によれば、英検「準2級」はCEFR「A2レベル」である。CEFRは、外国語の学習や教授、評価に広く用いられ、「A1・A2・B1・B2・C1・C2」の順で易から難へレベルが設定されている。松畑・橋内・佐生・大橋・竹野(2012)では、その成立と概要についてまとめられている。文部科学省(2018)「平成29年度英語力調査結果(高校3年生)の概要」では、国公立約300校の高等学校3年生約6万人、スピーキングテストについては約1万人を調査し、CEFR「A2レベル」以上

の割合は、「読むこと (33.5%)」「聞くこと (33.6%)」「書くこと (19.7%)」「話すこと (12.9%)」であった。この平成29年度の概要では平成27年度の結果と経年比較をしているが、4技能の中では「書くこと」、そして特に「話すこと」は一昨年度と同様に目標到達割合が低かった。

本研究では、大学の入学時における英語力の到達目標である英検準2級に焦点を当て、英検二次面接試験の受験者自身に関する意見を求める設問に用いられる質問文を分析することで、扱われている話題やそこに現れる語彙・表現などの特徴を検証していく。今回の研究により、英検準2級の二次面接試験で受験者自身に関してどのような話題の質問がされるのか、また、どのような語彙や表現で質問されるのかが明らかになれば、4技能の中でも育成が急務であるスピーキングの指導の際に有益であると考えられる。

2. 研 究

2.1 目的

本研究の目的は、公益財団法人日本英語検定協会が実施する「英検」(正式名称: 実用英語技能検定) 二次面接試験「準2級」の受験者自身の意見(など)を求める設問で用いられる質問文を分析し、扱われている話題、用いられている語彙・表現などの特徴を明らかにすることである。英検準2級の二次面接試験では、受験者自身の意見を求める設問は「No. 4」と「No. 5」の2問が該当する。本研究では、2007年度第1回から2016年度第3回まで10年間分のデータを基に検証を行う。

2.2 英検「準2級」の目安

英検は、各級の目安について協会HPで公表している(<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/about/>)。「準2級」は、次のように記されている。ただし、習得目標については「2級」と共通である。

習得目標: 使える英語で世界へ、大学入試レベル、2級から海外留学、履歴書で評価される

推奨目安: 高校中級程度

出題目安: 教育や科学などを題材とした、長文の穴埋め問題が加わります。センター試験の問題形式

と共通点が多く、入試対策にも最適。高校卒業段階の英語力の達成目標: 準2級~2級(文部科学省)

出題形式: 筆記, リスニング, 面接

英検準2級の「審査基準」は次のように記述されている(<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/criteria/>)。

程度 日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。

審査領域 読む: 日常生活の話題に関する文章を理解することができる。

聞く: 日常生活の話題に関する内容を理解することができる。

話す: 日常生活の話題についてやりとりすることができる。

書く: 日常生活の話題について書くことができる。

ここで注目したいのは、「日常生活」というキーワードである。文部科学省(2017)の中で、CEFR「A2」レベルの話すこと(発表)の説明文の一つに、「日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。」という記述を確認できる。英検「準2級」の目安は、日常生活の話題について、「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」ができることであるといえる。

2.3 英検準2級二次面接試験

英検準2級は、一次試験(筆記(75分)/リスニング(約25分))と、面接形式のスピーキング技能を測定する二次試験からなる。英語のみで行われる二次面接試験は約6分である。表1にあるとおり、測定技能と検定形式、主な場面・題材については協会HPで公表されている(http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/grade_p2/detail.html)。

協会HPの「準2級の過去問・対策」に過去に使用された問題が掲載されている(http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/grade_p2/solutions.html)。二次試験「問題の解答とサンプル」として、2009年度第1回カードAが使用されているが、その問題カードから本研究に関係

表1 英検準2級二次試験の測定技能と検定形式

測定技能	形式・課題	形式・課題詳細	問題数	解答形式
スピーキング	音読	50語程度のパッセージを読む。	1	個人面接 面接委員1人 (応答内容、発音、語い、文法、語法、情報量、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度などの観点で評価)
	パッセージについての質問「No. 1」	音読したパッセージの内容についての質問に答える。	1	
	イラストについての質問「No. 2」	イラスト中の人物の行動を描写する。	1	
	イラストについての質問「No. 3」	イラスト中の人物の状況を説明する。	1	
	受験者自身の意見など「No. 4」	カードのトピックに関連した内容についての質問に答える。	1	
	受験者自身の意見など「No. 5」	日常生活の身近な事柄についての質問に答える。(カードのトピックに直接関連しない内容も含む)	1	

主な場面・題材		
日常生活の話題	過去の出題例	ホームシアター、ボランティアガイド、電子辞書、食品フェア、映画祭、プリペイドカード

のない部分を削除し、受験者自身の意見に関する設問「No. 4」と設問「No. 5」の部分だけを図1に示す (http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/virtual/grade_p2/pdf/grade_p2.pdf)。

- No. 4 Do you think drinks in plastic bottles will be more popular in the future?**
 Yes. → **Why?**
 — People can carry drinks easily in plastic bottles. More kinds of drinks will be sold in these bottles.
 No. → **Why not?**
 — It's not easy to recycle plastic bottles. Many people will try not to buy drinks in plastic bottles.
- No. 5 There are many kinds of newspapers in Japan today. Do you usually read a newspaper?**
 Yes. → **Please tell me more.**
 — I think reading a newspaper is very useful. I can get a lot of news and information every day.
 No. → **Why not?**
 — I watch the news on TV every day. Also, I read the news on the Internet.

図1 英検準2級二次面接試験設問「No. 4」と設問「No. 5」の質問と解答例

2.4 手順

旺文社発行『英検準2級過去6回全問題集』を参照し、2007年度第1回から2016年度第3回までの全60回分

すべての英検二次面接試験の設問「No. 4」と設問「No. 5」の質問文を打ち込み、英文データを作成した。扱われている「話題」を分析するために、それぞれの質問文に日本語でトピック・ワードを付した。また、用いられている「語彙・表現」の検証のために、英文データを、フリーソフトのコンコーダンサー「AntConc」で照合した (<http://www.laurenceanthony.net/software.html>)。さらに、「Microsoft Word」で検索するなどして、語彙・表現を確認していった。

表2は、設問「No. 4」「No. 5」および、それらを統合した「No. 4 & 5」で使用される英文データの基本情報である。「Microsoft Word」の機能を用いて、Flesch Reading EaseやFlesch-Kincaid Grade Levelなどを測定した。Flesch Reading Easeは読みやすさの評価基準であり、標準的な文章が60から70で示され、スコアが高いほど読みやすいとされる。最高ポイントは100である。Flesch-Kincaid Grade Levelは、米国の学校の学年を基準にしている尺度である。スコアが6.0であれば、6年生が理解できる文章であることを表している。

表2 設問「No. 4」「No. 5」で使用される英文データの基本情報

	総語数	文の数	文中の 単語数 (平均)	単語内の 文字数 (平均)	受身形 の文	Flesch Reading Ease	Flesch- Kincaid Grade Level	AntConc Word List エントリー数
No. 4	796	60	13.2	4.3	1.6%	81.3	5.2	175
No. 5	1006	120	8.3	4.3	1.6%	74.1	5.0	178
No. 4&5	1802	180	10.0	4.3	1.0%	77.8	4.8	270

3. 分析結果

3.1 設問「No. 4」「No. 5」「No. 4 & 5」で扱われる話題について

設問「No. 4」「No. 5」それぞれの質問文にその質問の「話題」内容と考えられるトピック・ワードを付し、「No. 4」を集計したものを表3、「No. 5」を集計したものを表4、それらを統合した「No. 4 & 5」を集計したものを表5に示す。トピック・ワードについて、説明が必要なものについて簡潔に記述しておく。「教育」には、学習、学校教育、家庭教育、社会教育等をすべて含み、図書館、美術館、博物館等も教育に含まれる。「生活一般」には、音楽、映画、読書、家事、料理、地域の祭、映画館を含むが、ペット、買物等の別項目となっているものは含まない。「健康」には、心身両面の健康状態を含む。食習慣、ファーストフード関連は健康に含まれる。「デジタル技術」には、PC、デジタルカメラ、携帯電話、インターネット、電子メール、ビデオゲーム等の技術を含む。「旅行」には、国内・海外の両方を含み、インバウンドとアウトバウンドの区別をしない。「メディア」には、TVやラジオ、新聞、雑誌等を含むが、インターネットは含まない。「スポーツ」には、参加と観戦の両方を含む。「環境」には、中古品売買、ペットボトル関連を含む。なお、「話題」

内容について、二つ以上の項目に該当する場合は、より上位にある項目に属するものとする。

3.1.1 設問「No. 4」で扱われる「話題」内容について

表3は、設問「No. 4」の60の質問の「話題」内容とその頻度、割合を示している。この表によると、設問「No. 4」では、他の内容と比べて明らかに「教育」が扱われる頻度が高いことが分かる。「旅行」「健康」「デジタル技術」と頻度の高い内容が続くが、それら三つの項目を加えてはじめて「教育」と同じ数値になるほど「教育」は際立っている。このことは、本研究での「教育」の定義が広範囲を含むこと、二つ以上の項目に該当している質問文はより上位にある項目に属す、例えば、「コンピュータを使う(to use computers)」という質問文でも「学校教育の中で(at school)」とあれば「教育」がより上位概念であると判断したこと、なども要因であると考えられる。それらの要因も踏まえ、英検準2級の推奨受験対象者が中級程度の高校生であること、設問「No. 4」では、問題カードのトピックに関連した質問がなされることなども考慮に入れると、教育的な内容が扱われる頻度が自ずと高くなるのは当然であるように思われる。

表3 「No. 4」の質問文で扱われる「話題」内容について (n=60)

話題	頻度	%	話題	頻度	%
教育	21	35.00	スポーツ	3	5.00
旅行	8	13.33	ペット	3	5.00
健康	7	11.67	生活一般	2	3.34
デジタル技術	6	10.00	メディア	1	1.67
買物	4	6.67	ボランティア活動	1	1.67
環境	4	6.67			

3.1.2 設問「No. 5」で扱われる「話題」内容について

表4は、設問「No. 5」の60の質問の「話題」内容とその頻度、割合を示している。この表によると、設問「No. 5」では「教育」を抑えて「生活一般」が最も高頻度な項目であった。設問「No. 4」では「生活一般」に関する内容は60質問中の2回しか出題されていないことを考えると、設問「No. 5」では「生活一般」という、生活に関連する、より一般的な話題が好まれる傾向があることが分かった。次に、「生活一般」「教育」「買物」の後に続く「メディア」にも注目したい。設問「No. 4」では「メディア」は1回しか出題されていなかったのに対し、設問「No. 5」では7回出題され比較的頻出の内容となっている。一方で、設問「No. 4」では出題されていた内容であるが、「No. 5」では「旅行」「環境」という内容は扱われていないなど、項目によって、設問「No. 4」と「No. 5」で大きな差異があるという興味深い結果となった。

3.1.3 設問「No. 4 & 5」で扱われる「話題」内容について

表5は、設問「No. 4」と「No. 5」を統合した120の質問の「話題」内容とその頻度、割合を示している。英検

準2級の審査基準の目安が、「日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。」であり、上位級である2級の目安「社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。」の前段階であることを考えられると、「話題」内容はすべて、「社会生活」に入る前の「日常生活」にとどまっていると理解できる。日常生活の中でも、推奨目安が高校中級程度であることを考えると、やはり「話題」として最頻出なのは「教育」、そして「生活一般」「買物」「健康」「デジタル技術」などが続き、「メディア」「スポーツ」「ペット」「環境」「ボランティア活動」などの内容が扱われていることが分析によって明らかになった。

3.2 設問「No. 4」「No. 5」「No. 4 & 5」で用いられる語彙・表現の特徴について

表2を参照すると、設問「No. 4」で用いられた総語数、すなわち延べ語数 (token) は796語、異なり語数 (type) は175語であった。設問「No. 4」は、図1の例にあるように、質問文は1文であり、文中の単語数の平均は13.2語であった。一方で、設問「No. 5」の延べ語数は1,006語、異なり語数は178語であった。設問「No. 5」は、図1で確認できるように2文での質問になり、文中の平均単語

表4 「No. 5」の質問文で扱われる「話題」内容について (n=60)

話題	頻度	%	話題	頻度	%
生活一般	17	28.33	スポーツ	2	3.34
教育	13	21.67	ペット	2	3.34
買物	9	15.00	ボランティア活動	2	3.34
メディア	7	11.67	旅行	0	0.00
健康	4	6.67	環境	0	0.00
デジタル技術	4	6.67			

表5 「No. 4 & 5」の質問文で扱われる「話題」内容について (N=120)

話題	頻度	%	話題	頻度	%
教育	34	28.33	メディア	8	6.67
生活一般	19	15.83	スポーツ	5	4.17
買物	13	10.83	ペット	5	4.17
健康	11	9.17	環境	4	3.33
デジタル技術	10	8.33	ボランティア活動	3	2.50
旅行	8	6.67			

数は8.3語であるので、一文単位で考えれば、設問「No. 4」の質問文の方が概して長い文であるといえる。

3.2.1 設問「No. 4」の質問文で用いられる語彙・表現の特徴について

設問「No. 4」の英文データに含まれる60の質問文の分析にあたり、筆者ら英語指導者から見た気づきと、コンコーダンサー「Antconc」や「Microsoft Word」の検索機能などを用い数値で表すことができる分析結果を含めたものを以下に箇条書きで記す。

- ・例外なく、Do you thinkで始まるYes/No Questionである(60例)。
- ・Do you thinkに続く従属節の動詞の時制/相は現在時制/単純相である。助動詞willを用いる場合が最も多く(31例)、これにshouldを用いる場合が続く(15例)。これら以外は現在形のbe動詞を用いており(12例)、その半数で形式主語のitを用いたit is … to～. という構文が用いられている(6例)。
- ・上記の従属節の内容は、現在または現在から未来に及ぶものがすべてである。このため、in the futureを用いたり(30例)、「現在よりも多い」等の意味で比較級more等を用いたり(43例)する場合が大半である。
- ・表1にあるとおり、カードのトピックに関連した内容についての考えを求められる。

3.2.2 設問「No. 5」の質問文で用いられる語彙・表現の特徴について

設問「No. 5」も同様に、英文データに含まれる60の質問、120の文の分析を、筆者らの気づきと、コンコーダンサーや検索機能などを用い数値で表すことができる分析結果を以下に箇条書きで記す。

- ・質問は、2文からなる。
- ・第1文で、前提となる現在の一般的状況などを平叙文で述べることによってトピックが示される(60例)。この中では、動詞の時制/相は現在時制/単純相であり、動詞ではenjoy(10例)が多用される。there are/isも多くみられる(18例)。
- ・第1文では、today(29例)やmany(45例)によって現在の一般的状況であることが強調される。これら以外には、these days(8例)、a lot of(10例)、in

Japan(14例)等も登場する。

- ・第2文で、トピックの一般的状況と自分の嗜好や行動が一致するかどうかを尋ねられることがほとんどである。
- ・第2文は、Do/Are youで始まるYes/No Questionであるが(60例)、これに続けて、動詞でlike(20例)や(be)interested(5例)を用いたり、副詞often(17例)を用いたりすることが多い。
- ・嗜好や行動の一致以外にも、具体的な行動や場合を例示するように求められることもある(7例)。例えば、Do you do any housework?のように、具体的な行動を尋ねている場合がこれに当たる。
- ・内容は、パッセージ、同テスト回での設問「No. 4」とは異なるものである。

3.2.3 設問「No. 4 & 5」の質問文で用いられる語彙・表現の特徴について

設問「No. 4」と設問「No. 5」のすべての質問文で用いられている異なり語は270語である。その中で3回以上の出現回数の語彙について頻度順に並べたものが付録1である。この表から、それぞれの「話題」内容の重要なキーワードと考えられる語を、名詞を中心に確認しておきたい。なお、これらの語は必ずしもその話題のみで扱われているとは限らず、括弧内の数値は出現回数である。「教育」に関して、Japanese, students, countries(12), museum(11), study(8), abroad, children, school(6), schools(5), art, English, language, learn(4), computers, libraries(3)などの語が挙げられる。「生活一般」では、activities, festivals(6), movies, watching(5), housework, outdoor(4)などである。「買物」は、stores(10), buy, convenience(9), flea, markets, shopping, hundred, yen(4), shops(3)などが該当する。「健康」では、fast, food, health, relax, vegetables(3)などの語である。「デジタル技術」は、Internet(7), cell, phones, games(3)など、「旅行」では、traveling(6)などの語が頻出する。「メディア」では、TV(10), news(8), programs(7), quiz, shows(4)の語がよく用いられる。「スポーツ」では、sports(7)、「ペット」は、pets(5)が、「環境」は、3回以上出現した該当する語がなく、「ボランティア

「ボランティア活動」は、volunteer (5) が重要なキーワードであるといえる。

4. まとめと今後の課題

本研究では、英検準2級二次面接試験の受験者自身に関する意見を求める設問に使用された質問文を分析することで、扱われる話題や用いられる語彙・表現などの特徴を検証してきた。準2級の推奨目安が高校中級程度であり、レベルとしては、日常生活に必要な英語の理解と使用ができることを目指しているため、「話題」に関しては、「教育」「生活一般」「買物」「健康」「デジタル技術」「旅行」「メディア」「スポーツ」「ペット」「環境」「ボランティア活動」など日常生活の範疇である内容が扱われていることが分かった。着目すべき点は、設問「No. 4」と設問「No. 5」で内容項目によって出現の頻度に差があることであった。「語彙・表現」については、英語指導者の視点からの気づきとコンコーダンサーや検索機能を用い客観的・数値的な分析を試みた。分析結果の記述を見ると、英検準2級面接試験の英問英答について再確認できることが少なくなかった。本稿の分析結果から、日常生活においてどのような「話題」をどのような「語彙・表現」で質問されるかについて示唆が得られた。スピーキング指導に際しては、それらのことを考慮に入れながら、学習者が自身の意見を答えられるように指導する必要があると考える。

今後の課題として、本研究では準2級の受験者自身の意見を求める設問の質問文に焦点を当て分析を行ったが、上位級である2級、準1級レベルではどのような「話題」でどのような「語彙・表現」が面接試験で用いられているのかを明らかにしていきたい。

著作権に関する許諾について

本研究では、著作権に関して、公益財団法人日本英語検定協会に「英検・過去問題使用許可申請書」を提出し、協会から許諾をいただいた。ここに感謝の意を表したい。設問「No. 4」と設問「No. 5」の質問文については、毎年発行される『英検準2級過去6回全問題集』(旺文社)を参照した。

引用文献

- 旺文社. 『英検準2級過去6回全問題集』(2008年度版～2018年度版)
- 文部科学省(2010). 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』東京: 開隆堂出版
- 文部科学省(2013). 「第2期教育振興基本計画」
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/14/1336379_02_1.pdf
 (最終閲覧日: 2018年3月29日)
- 文部科学省(2016). 「平成27年度英語教育改善のための英語力調査事業(高等学校)報告書」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/12/16/1375533_1.pdf
 (最終閲覧日: 2018年3月29日)
- 文部科学省(2017). 「大学入試選抜改革について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/07/_icsFiles/afieldfile/2017/07/18/1388089_002_1.pdf
 (最終閲覧日: 2018年3月29日)
- 文部科学省(2018). 「平成29年度 英語力調査結果(高校3年生)の概要」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470_03_1.pdf
 (最終閲覧日: 2018年3月29日)
- 松畑熙一・橋内幸子・佐生武彦・大橋典晶・竹野純一郎(2011). 「CEFRと日本の外国語教育(1) - CEFRの成立とその概要 -」『中国学園大学紀要』第10号, 57-65.

付録1：設問「No. 4」と設問「No. 5」で用いられた高頻度語彙

順位	頻度	語	順位	頻度	語	順位	頻度	語
1	125	do	44	9	convenience	87	4	housework
2	120	you	45	9	good	88	4	hundred
3	81	in	46	9	time	89	4	idea
4	77	to	47	8	days	90	4	language
5	60	people	48	8	news	91	4	learn
6	60	think	49	8	study	92	4	listen
7	46	many	50	8	would	93	4	lunch
8	46	more	51	8	your	94	4	markets
9	41	the	52	7	internet	95	4	outdoor
10	31	a	53	7	programs	96	4	popular
11	31	today	54	7	sports	97	4	public
12	30	future	55	6	about	98	4	quiz
13	30	will	56	6	abroad	99	4	shopping
14	28	are	57	6	activities	100	4	shows
15	28	of	58	6	better	101	4	take
16	26	like	59	6	children	102	4	tea
17	22	go	60	6	festivals	103	4	train
18	20	often	61	6	it	104	4	visit
19	20	there	62	6	school	105	4	ways
20	19	at	63	6	spend	106	4	yen
21	18	japan	64	6	such	107	3	cell
22	16	foreign	65	6	traveling	108	3	computers
23	15	should	66	6	used	109	3	drink
24	15	their	67	5	as	110	3	fast
25	14	kinds	68	5	by	111	3	food
26	13	enjoy	69	5	interested	112	3	from
27	13	is	70	5	live	113	3	games
28	13	students	71	5	movies	114	3	health
29	12	and	72	5	pets	115	3	home
30	12	countries	73	5	schools	116	3	keep
31	12	japanese	74	5	than	117	3	libraries
32	12	use	75	5	things	118	3	music
33	11	different	76	5	volunteer	119	3	other
34	11	for	77	5	watching	120	3	phones
35	11	museums	78	5	work	121	3	playing
36	11	on	79	4	any	122	3	relax
37	10	have	80	4	anything	123	3	shops
38	10	lot	81	4	art	124	3	some
39	10	stores	82	4	be	125	3	songs
40	10	these	83	4	eat	126	3	stay
41	10	tv	84	4	english	127	3	that
42	10	watch	85	4	flea	128	3	towns
43	9	buy	86	4	free	129	3	vegetables